

## 2012年度 第17回「音の匠」顕彰について

「音の日」実行委員長  
森 芳久

エジソンが世界初の円筒式錫箔蓄音機「フォノグラフ」を発明した1877年12月6日にちなみ、日本オーディオ協会、日本レコード協会、日本音楽スタジオ協会などが中心となり、1994年にこの記念すべき12月6日を「音の日」と制定し、以降、音と音楽文化の重要性さらにはオーディオや音楽産業の発展に寄与することを目的に、多くの啓蒙活動を行ってまいりました。

また、1996年からは日本オーディオ協会では「音の日」の記念行事の一つとして、音を通して技術や文化また社会に貢献された方々を「音の匠」として顕彰し、広く一般の方々に素晴らしい音の世界を認識していただくべく活動を続けてまいりました。

第17回になる2012年度は、福祉工学を活用することで健常者のみならず軽度の聴覚障害のある方々にも的確に警報を伝え、迅速かつ着実な避難行動につながる緊急地震警報を開発された、東京大学名誉教授伊福部達氏を「音の匠」として顕彰いたしました。

また昨年は、日本オーディオ協会創立60周年という記念の年となりましたが、奇しくもエジソンの「フォノグラフ」発明から135周年、また現在のディスク型レコードの源ともいえるべき、ベルリナーの円盤式蓄音機「グラモフォン」発明から125周年に当たる節目の年となりました。

そこで、昨年は「音の匠」に加え、初期のエジソンの蓄音機からアコースティック録音全盛時代の蓄音機、蝋管やSPレコードなどを多数収集し、今日もそれらを当時のままに再生することでオーディオ・音楽の奥深さを伝えてこられた、金沢蓄音器館館長八日市屋典之氏を「音の匠特別功労賞」として顕彰いたしました。

尚、昨年の「音の日」には「音の匠」伊福部達氏、「音の匠特別功労賞」八日市屋典之氏によりそれぞれの特別講演が行われました。その内容が次ページに掲載されていますので、是非ご覧ください。



(写真) 右:「音の匠」伊福部 達氏 左:「音の匠特別功労賞」八日市屋典之氏